



撮影も編集もダイナミック、 デジタル一眼レフの虜になった。



(尾張北支部)
三洲土木株式会社
取締役会長
金田 辰雄 さん

名古屋市営地下鉄「赤池」駅から車でしばらく走ると田園風景が広がってくる。今回は、愛知郡東郷町にある三洲土木株式会社（愛知郡東郷町大字春木字新池3922-66）取締役会長の金田辰雄さんに趣味のお話を伺いにお邪魔しました。

金田さんの部屋に案内されると、壁には花や旅の写真が飾られてありました。インタビューの準備をしてくださったのか、パソコンのモニターには保存されている写真のリストが表示されていました。



写真がご趣味と伺いました。この写真も金田さんが撮ったものですか？

金田 そうです。自分で撮影したものを編集するのも加工するのも私です。気に入ったものをプリントしてこうして飾っています。

すべてご自分でなさるんですね。写真を始めたきっかけはなんですか？

金田 元をたどると高校生の頃に写真に興味を持ち、友人とカメラに関

する雑誌を読んだり、お金を貯めてカメラを買い、暗室を作って現像までしていました。しかし、その後は忙しくてカメラどころではなかったので、しばらくはまったく手にしていませんでした。ところが、2004年の2月に息子からデジカメとパソコンをプレゼントされ使ってみると、昔のカメラとは違い、デジタルの楽しさにしっかりはまってしまいました。その後は2006年に一眼レフのデジカメを初めて買いました。

デジタルの楽しさというのは、撮るところに違いがあるのですか？

金田 撮影自体に大きな差はありませんが、撮った写真を手軽に自分で編集したり、加工できるところがとても魅力的です。現在はパソコンにキヤノンのソフトを入れて編集・加工をしています。これは、写真の撮影データも1枚1枚表示されるので、自分がどんな状態で写真を撮ったかも一目瞭然です。

(パソコンの写真を見ながら)これが撮影データというものですね。

金田 そうです。撮影日時はもちろん、その時のカメラの絞り、シャッタースピードなども表示されるの

で、出来上がった写真を見ながら、反省もできるんです。ああ、もっとシャッタースピードを速くしておけばとか絞りは開放にしておいた方が良かったな…など写真を見ながら勉強しています。

カメラは独学ですか？

金田 ほとんどは本を読んだり調べたりしての独学ですが、実は先ほど話した高校の時に写真を一緒にやっていた友人も今写真に凝っていて、お互いにデータの交換などをして腕を磨いています。

幼なじみと趣味を共有できるとは、最高ですね。こうして写真を拝見していると、花や風景、旅先での写真が多いですね。

金田 そうですね、今、少しは自由な時間ができたので、写真を撮るために旅に行ったり、山に登ったりしています。どちらも写真を撮るため





に行っているのですが、カメラと荷物を含めると3〜4キロのものを担いでいくので、この年齢では少々大変です(笑)。それでもカメラを置いていく気にはなれません。「きれいだな」と感じた瞬間を写真に残したいですからね。

海外もおでかけになっていらっしゃいますね。

金田 ヨーロッパに3回、中国に4回、東南アジアに3回、世界遺産をめぐるのが好きなんです。その国の特徴を撮影したり、時代の移り変わった様子を見つけては撮影しています。(パソコンに保存してあった写真を開いて)これは中国に旅行に行った時のものです。この花を入れることで、あとで見ても季節を感じられるでしょ。

本当ですね。何気なく見ていたんですが、そういう意図が込められていたんですか。ただその瞬間を映すだけではなくて、いろいろな思いが写真には詰まっているんですね。

金田 写真というものは、目的がなければ意味がないと思っています。何を撮りたいか、どう撮りたいかは常に考えています。たとえば花を撮影しようと思うと、1日のうちに時間を見計らって何度もシャッターを押します。太陽の位置によって陽のあたり方が違うので花の表情も違っ

てくるんです。

どういう写真を撮りたいか…、どう撮るか…とても難しいそうですね。

金田 いや、難しく考え始めたらどんどん難しくなります。しかし、何よりも大

切なのは、その「きれいだな」と感じた気持ちを残すことだとも思います。時々、自分で撮影した写真を見て「俺ってこんな腕があったのか」と感激することもありますし(笑)、落ち込むこともあります。

旅の写真は風景のほかに奥様やご夫婦のツーショットもあって、とてもお幸せそうですね。

金田 モデルは妻だけですからね(笑)。

とても印象的な写真が多くて、金田さんの撮影された写真を拝見しながらお話を伺っていたら、私も中国に旅行した気分になってきました。

金田 そうなんです。この加工・編集の作業をしているとアツという間に時間が過ぎてしまいます。

拝見していても楽しいですから、ご自分で撮ったものを加工・編集していたら楽しいというお気持ちはとてもわかります。何時間でもパソコンの前にいられそうですね。

金田 これぞデジカメの醍醐味ですね。2004年からすでに4台目のデジカメで今は5Dで楽しんでいます。そうして作り上げたものをプリントして飾ったり、人にプレゼントしたりしています。



プレゼントは喜ばれそうですね。(花の写真を見ながら)この花などは3Dのようにクリアに映っていますね。なんだか手で触れそうです。

金田 花のひとつひとつもきれいに撮れたんですが、この陽の加減を見てください。こちら側だけ雲があるために陰になっている、でもこちら側は快晴の明るさです。こうした雲の変化も写真の構成に取り入れると面白い写真が撮れるんですよ。1つのものだけをフレームいっぱいにとっても、後で見ると「なんだっけ?」ってことがあります。何かその場所の特徴的な部分や季節を現すものが入っていると、その1枚から多くの思い出が蘇ることができるんです。

なるほど、勉強になります。見るだけでなくそこからさらに思い出が広がるわけですね。とても写真の奥深さを感じます。これから写真を撮る時も見る時も、もっとまっすぐ取り組もうと思います。今日はお忙しい中ありがとうございました。

